

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 利用者：女性 90代 要介護：1

利用期間：令和5年4月入所～現在利用中

経過：令和3年10月まで夫と2人暮らしをしていたが夫が他界する。以降独居となり、息子様二人が毎日本人宅を訪問していたが支援が難しくなり入居となる。

令和4年10月に転倒し胸椎圧迫骨折している。その他既往として、高血圧症、脂質異常症、アルツハイマー型認知症、変形性膝関節症、心房細動がある。

内 容

元々の性格は明るくてお話し好き。と、ご家族から聞いていましたが、アルツハイマー型認知症を患っていることもあり、入所初日から帰宅願望が強かった。「どうしてここに居なきゃいけないんですか」「息子に電話してください」等の訴えを毎日繰り返し、時には職員に詰め寄ることもあった。また、ご家族との面会の際には「私を連れて帰りなさい」とお嫁様の腕を強くつかみ、激しく興奮する一幕もみられた。その背景として、昔自宅で生活していた時にお嫁様に対して厳しくあたっていたとのこと。そのこともあり、自宅に帰る事は難しいと息子様が話していた。ご本人はそんな息子様を立派に育てあげたと常々口にしている。

入所間もなく帰宅願望がみられることは珍しいことではないが、日を重ねても中々症状が落ち着く様子がみられなかった。そこでユニットスタッフで話し合い、改めてご本人との時間を大切にし、少しずつ信頼していただけるよう対応していくことにした。すぐに変化が見られなかったが、帰宅願望が強くても根気強く傾聴する。ご入居者の情緒が安定している時は積極的に時間を作りユニット内を散歩しながら、大好きなお話しをする。また、ご家族に協力していただき、趣味だった生け花を定期的実施した。帰宅願望はなくなりませんでした。少しずつ暴力的な言動や行動が、確実に減っていった。

半年ほどが経過しご入居者の生活もようやく落ち着いてきた頃、「お腹が空いた。何か食べたいわ」と訴えることが増えた。短期記憶が乏しく、食事したことを忘れるという側面もあるが、ご本人の要望を叶えたいと思った。食べたい物を聞くと「なんでも食べるの。でも和菓子が好きかな」とのことで、近所のコンビニまで買い物に行く計画をたてた。入所間もなくは帰宅願望が強く、外出は考えられなかったこともあり、ご本人同様スタッフも喜んだ。

外出当日、歩行するには距離がある為車椅子で買い物に出掛ける。道中、大好きなお話しているとご本人から「編み物が好き」という言葉が聞かれた。これまで何度話をしても出てこなかったご入居者の心の中の言葉を引き出すことができた瞬間だった。せっかくですので息子様に編んではどうですか?と

提案すると「もらってくれるかしら?でもそれもいいわね」と前向きな様子がみられた。

現在、息子様の為にとマフラーを製作中のご入居者。帰宅願望は今もあるが、自宅に帰ることは難しいかもしれない。しかし、その中でも大好きな息子様を思いながら、楽しい施設生活を送れているご本人を今後も支援していきたい。